

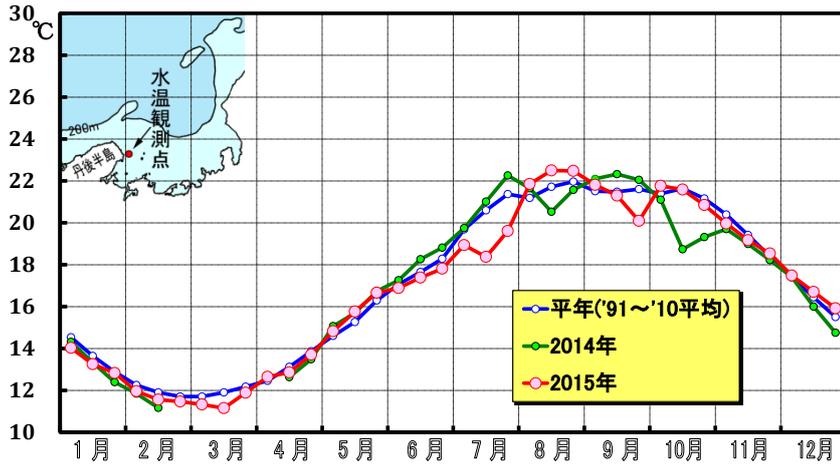
京都府漁海況情報

京都府農林水産技術センター海洋センター 海洋調査部
<http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/>
 電話:0772-25-3078 FAX:0772-25-1532

海の状況 ～2015 年 1 月から 12 月まで～

表層の水温は、夏季に例年よりやや高めの期間が多かったことを除くと、おおむね例年並みかやや低めで推移しました。

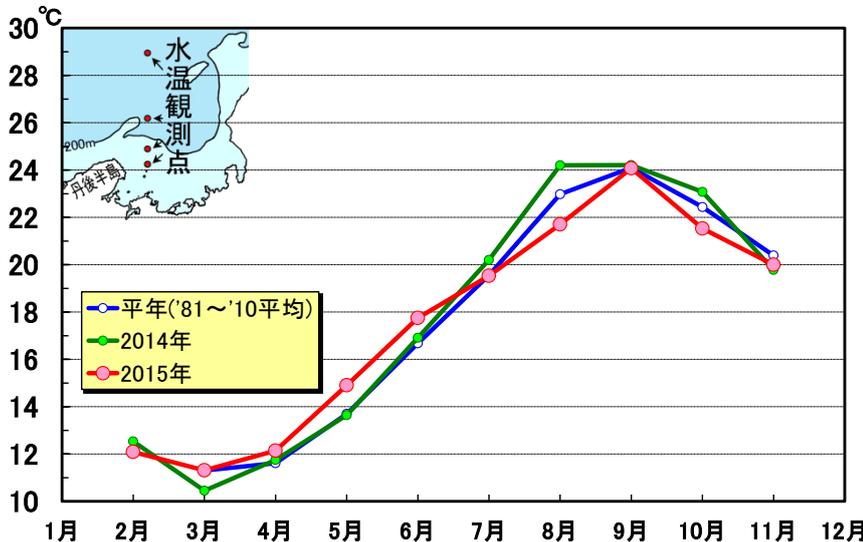
京都府沿岸(伊根町新井崎地先 水深 64m) の水温 (50m 深)



月平均水温と平年差(括弧内)

単位: °C	50m 深
1月	13.3(-0.3)
2月	11.7(-0.3)
3月	11.5(-0.5)
4月	13.1(-0.1)
5月	15.8(+0.4)
6月	17.4(-0.3)
7月	19.0(-1.6)
8月	22.3(+0.7)
9月	21.3(-0.5)
10月	21.4(±0)
11月	19.2(-0.2)
12月	16.7(+0.3)

京都府沖合の表層水温(0~50m 深平均)



各月水温と平年差

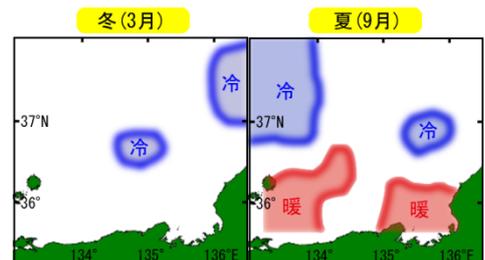
単位: °C	水温	平年差	評定
1月			観測なし
2月	12.1		データ過少につき評定なし
3月	11.3	±0	平年並み
4月	12.1	+0.5	やや高め
5月	14.9	+1.2	かなり高め
6月	17.8	+1.1	かなり高め
7月	19.5	-0.1	平年並み
8月	21.7	-1.3	やや低め
9月	24.1	±0	平年並み
10月	21.5	-0.9	やや低め
11月	20.0	-0.4	平年並み
12月			観測なし

京都府沖合の水塊配置

資料元: (独)日本海区水産研究所

京都府沖合には暖水域が、春から夏にかけてその形状を変化させつつ停滞していました。

冷水域は、春から夏にかけて京都府沿岸にやや接岸していました。

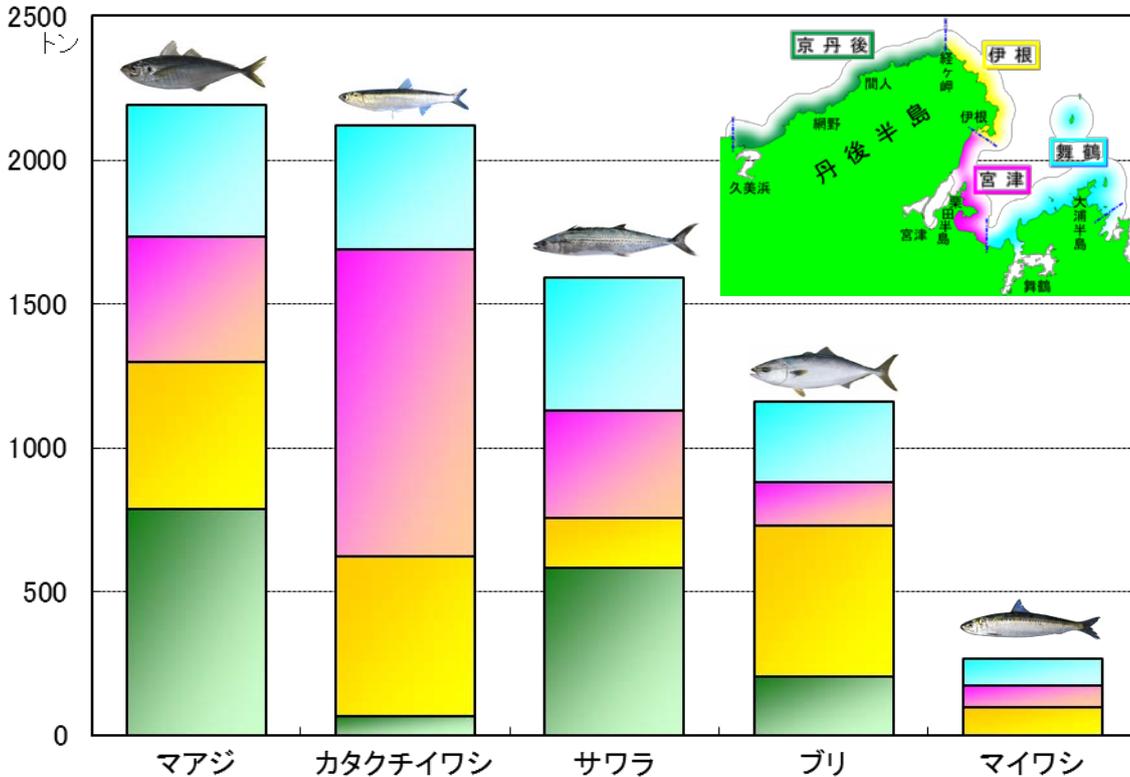


漁模様 ～2015年1月から12月まで～

【定置網漁業】

マアジやマイワシなどが好漁でした。一方、サバ類やイカ類が例年より少漁でした。全体では平年並み（前年の1.1倍）の水揚げでした。

2015年の地域別漁獲量(上位5魚種)

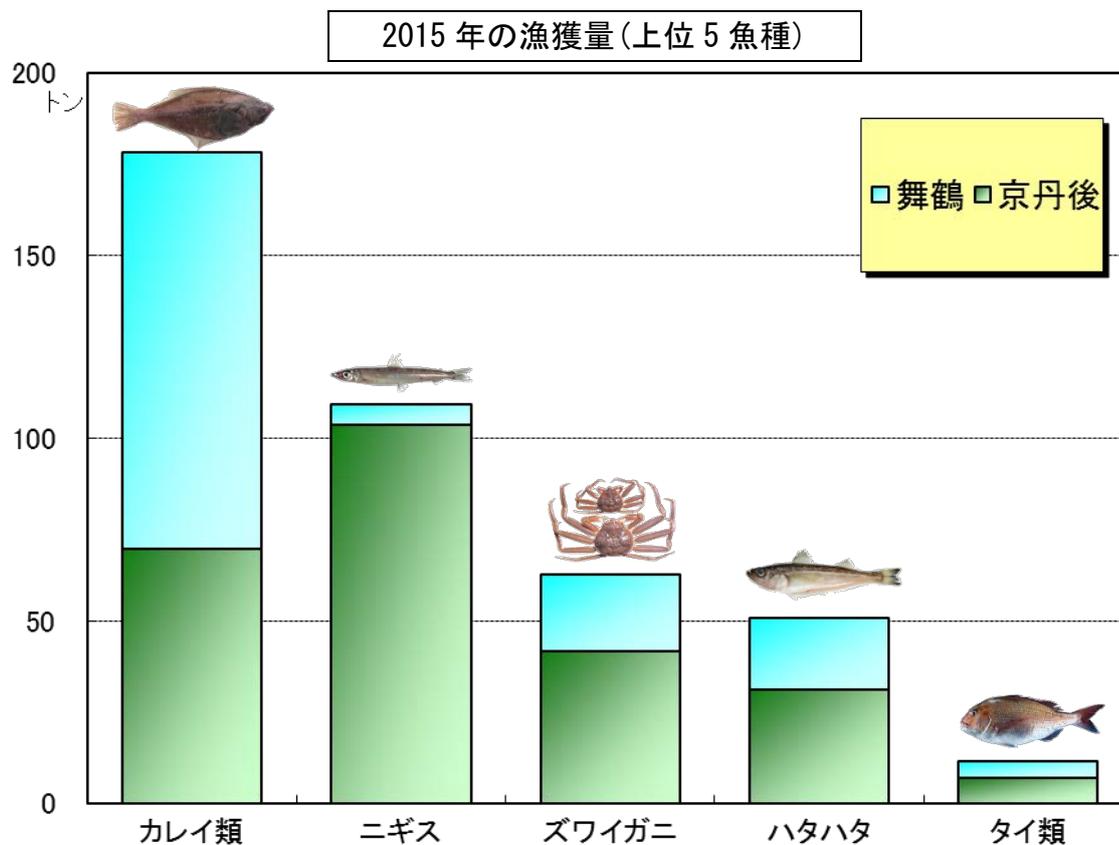


年間漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2015年	2014年(前年比)	平年(平年比)	備考
マアジ	2190	619 (354%)	1414 (155%)	<マアジ><カタクチイワシ>混ぜり銘柄(主体となる魚種に、他魚種の小さなサバ類、マイワシ等が混ざったもの)も含めて集計。
カタクチイワシ(たれ)	2118	2257 (94%)	2504 (85%)	
サワラ	1592	1850 (86%)	1616 (99%)	
ブリ	1158	1190 (97%)	1215 (95%)	
マイワシ	267	79 (336%)	165 (161%)	
カマス類	246	515 (48%)	279 (88%)	<ブリ>つばす銘柄が543トン、はまち銘柄が356トン、まるご銘柄が97トン、ぶり銘柄が163トンでした。
サバ類	220	533 (41%)	339 (65%)	<イカ類>アオリイカ(秋いか)が91トン、スルメイカが44トン、ケンサキイカ(白いか)が38トン、ヤリイカ(冬いか)が32トン、ソデイカ(たるいか)が3トンなどでした。
イカ類	219	279 (79%)	452 (48%)	
トビウオ類	186	81 (230%)	178 (105%)	
シイラ	172	131 (131%)	208 (83%)	
その他	1108	1249 (89%)	1607 (69%)	
合計	9476	8783 (108%)	9978 (95%)	

平年は過去10年平均

【底曳網漁業】

主要な魚介類は、ニギスを除いて例年より少漁気味でした。全体では、平年の8割弱（前年の9割）の水揚げでした。



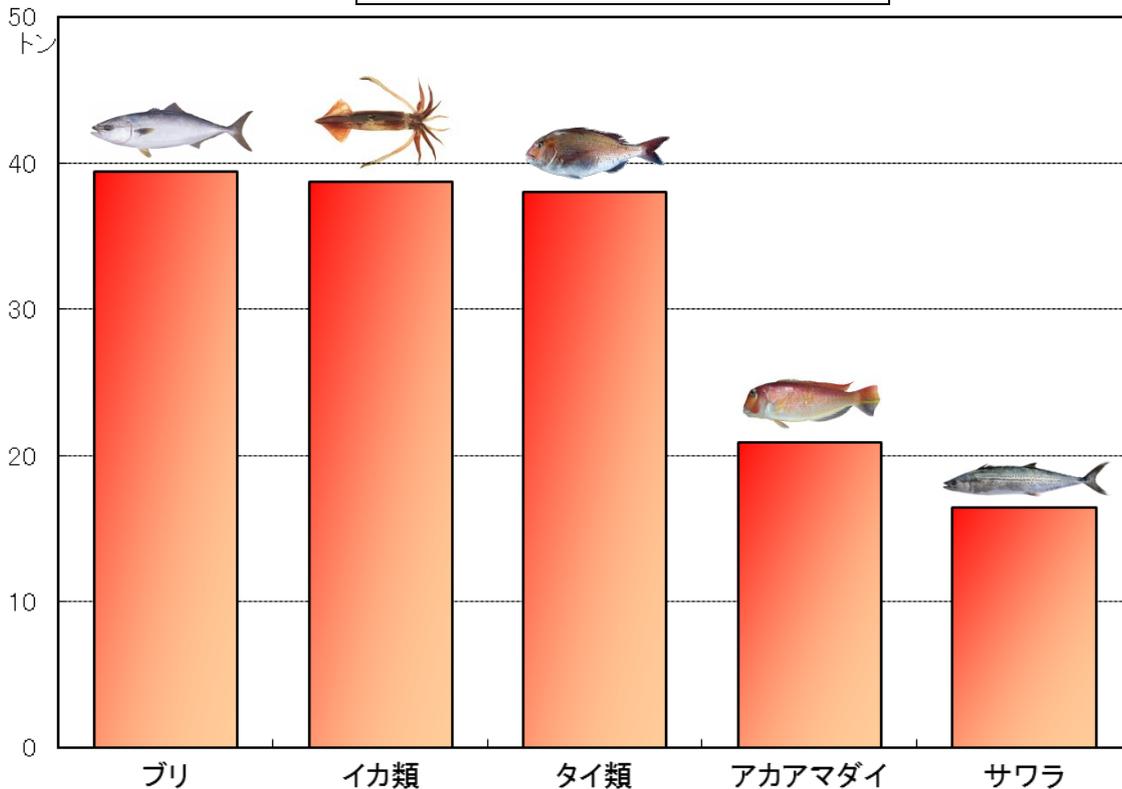
年間漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2015年	2014年(前年比)	平年(平年比)	備考
カレイ類	178.2	183.7 (97%)	220.1 (81%)	<カレイ類> アカガレイ(まがれい)が124トン、ヒレグロ(黒がれい)が20トン、ソウハチ(えてがれい)が19トン、ムシガレイ(水がれい)が7トン、ヤナギムシガレイ(ささがれい)が7トンなどでした。
ニギス(沖きす)	109.3	109.5 (100%)	98.5 (111%)	
ズワイガニ	62.4	83.0 (75%)	91.0 (69%)	
ハタハタ	50.6	63.4 (80%)	152.2 (33%)	
タイ類	11.5	24.6 (47%)	13.1 (88%)	
イカ類	11.5	5.7 (201%)	8.3 (139%)	<ズワイガニ> オス(間人がに・舞鶴かに)が37トン、メス(せこがに)が25トンでした。
アンコウ	10.3	15.3 (67%)	23.8 (43%)	
エビ類	8.6	9.1 (94%)	6.8 (127%)	
タラ類	7.7	4.2 (182%)	3.3 (232%)	
タコ類	7.5	7.5 (100%)	12.6 (60%)	
その他	51.5	54.6 (94%)	47.4 (108%)	
合計	509.1	560.8 (91%)	677.3 (75%)	

平年は過去10年平均

【釣り・はえなわ漁業】

主な釣獲対象となる魚介類のなかでは、ブリが好漁でしたが、イカ類が低調でした。全体の水揚げ量は、平年の8割強（前年の9割弱）でした。

2015年の漁獲量(上位5魚種)



年間漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2015年	2014年(前年比)	平年(平年比)	備考
ブリ	39.4	80.3 (49%)	56.0 (70%)	<ブリ> まるご銘柄が18トン、ぶり銘柄が11トン、つばす銘柄が5トン、はまち銘柄が5トンでした。
イカ類	38.7	39.6 (98%)	83.5 (46%)	
タイ類	38.0	34.8 (109%)	32.0 (119%)	
アカアマダイ(ぐじ)	20.9	20.9 (100%)	21.4 (98%)	
サワラ	16.5	22.7 (73%)	25.6 (64%)	
メバル類	15.1	13.8 (109%)	13.0 (116%)	<イカ類> スルメイカが31トン、ケンサキイカ(白いか)が4トン、ヤリイカ(冬いか)が2トン、アオリイカ(秋いか)が1トンなどでした。
ウマヅラハギ(長はぎ)	7.7	5.9 (130%)	5.8 (131%)	
スズキ	1.7	1.6 (106%)	2.6 (66%)	
メジナ(つかや)	1.5	1.4 (105%)	0.5 (276%)	<タイ類> マダイが26トン、キダイ(レンコダイ)が10トン、クロダイとチダイが若干量でした。
ヒラマサ	1.3	2.8 (45%)	0.8 (152%)	
その他	17.6	18.3 (96%)	36.5 (48%)	
合計	198.2	242.2 (82%)	277.8 (71%)	

平年は過去10年平均

【2015 年の特異的なできごと】

冬

- ・カタクチイワシが定置網でまとまる
(1月に平年比 3.8 倍の 332 トン)。
- ・寒ブリが定置網でまとまる。
(1月に平年比 2.7 倍の 96 トン)
- ・ウマヅラハギ (長はぎ) が定置網でふるわず。
(1~2月に平年比 22%の 10.4 トン)
- ・マイワシが定置網でまとまる。
(3月に平年比 2.5 倍の 77 トン)



春

- ・4~6月に平年より高い水温が続く。
(5月は平年比 +1.2℃)
- ・マアジが定置網でまとまる。
(4~5月に平年比 2.7 倍の 867 トン)
- ・サワラ (さごし) が定置網でまとまる。
(6月に平年比 6.3 倍の 223 トン)



夏

- ・サバ類が定置網でまとまる。
(7~9月に平年比 3.6 倍の 159 トン)。



秋

- ・マアジが定置網でまとまる。
(9~10月に平年比 3.1 倍の 451 トン)
- ・アカカマスが定置網でふるわず。
(9~10月に平年比 35%の 45 トン)
- ・エチゼンクラゲは 6 年連続で大量来襲せず
- ・イカ類が定置網・釣りでふるわず。
(10~12月に定置網で平年比 54%の 99 トン, 釣りで平年比 10%の 3 トン)。
- ・ブリが定置網でふるわず。
(10~12月に平年比 49%の 201 トン)。
- ・ヒョウモンダコの出現が例年より多い。
(9~12月に 7 件の捕獲事例。)

【2015 年に見かけた珍しい生き物】

下の写真は、2015 年に丹後の海で見られたあまりなじみのない生き物の一例です。

ダイオウイカ	ヒョウモンダコ	
 <p>胴長：2m（全長約 4～5m、京丹後市に 12/14 漂着） 分布：日本各地 特徴：巨大イカの 1 種。2015 年は富山県などでも、多数発見の報告がありました。</p>	 <p>全長：最大 10cm（標本は約 2cm、舞鶴市で 10/3 採捕） 分布：主に太平洋側 特徴：唾液中にフグ毒と同じ猛毒のテトロドトキシンを持っており、非常に危険です。2015 年は京都府内でも発見が相次ぎました。</p>	
ナガヅカ	クサウオ	アカタチ
 <p>全長：最大 80cm （標本は全長 65cm、宮津市で 1/30 採捕） 分布：島根県、千葉県以北 特徴：冬～春に浅海の岩礁域で産卵するようです。練製品や干物の原料（卵巣にはジノグネリンという毒あり）。</p>	 <p>体長：約 50cm （宮津市で 12/7 採捕） 分布：北太平洋、南氷洋に多い 特徴：腹鰭は吸盤状になっています。福島県などでは食用にするようです。</p>	 <p>全長：40cm （標本は全長 12cm、宮津市で 12/2 採捕） 分布：南日本 特徴：砂泥底域の底に穴を掘って生活しています。</p>
ウナギギンポ	ホシセミホウボウ	
 <p>全長：20cm （標本は全長 40cm、宮津市で 11/13 採捕） 分布：主に太平洋側 特徴：内湾や浅海の砂泥底に生息している。飼育魚としても販売されています。</p>	 <p>全長：最大 35cm （標本は 22cm、宮津市で 5/22 採捕） 分布：南日本 特徴：羽のような立派な胸びれを広げて、海底付近を舞うように遊泳します。食用可。</p>	

参考文献：「新訂原色魚類大図鑑(北隆館)」「釣魚 1400 種図鑑(KADOKAWA)」「イカ・タコガイドブック(阪急コミュニケーションズ)」

今回、標本や情報のご提供を頂いた栗田漁業生産組合、有限会社新井崎水産、京都府漁業協同組合ほか水産業界関係の皆様には感謝いたします。珍しい海の生き物を発見された場合には、当所までご一報いただくと幸いです。